

横浜清風高等学校

横浜清風インターアクトクラブ

高校生ボランティア・アワード
2020

～Think Globally, Act Locally～

3本柱についての説明

インターアクトクラブ3本柱

レスキューボックス×3本柱

「奉仕活動について」

公の場、地域の場において役に立てるように私たちは、ボランティアや奉仕活動をしています。

「親睦活動について」

多くの企画を通して、友情や親睦を深める活動をしています。

「国際理解について」

世界の人々が、国を超えて理解しあい、協力し、世界平和を実現することを、考えて活動しています。

奉仕活動

親睦活動

国際理解

「奉仕活動」

災害グッズが不十分な国に物資を送る行為が奉仕活動となる。

「親睦活動」

日本と物資を送る側の関係性が深まる。

「国際理解」

私たちが物資を送る国の環境問題や災害などの状況について調べることで国債への理解が深まる。

～2019年活動一覧～

「奉仕活動」

「親睦活動」

「国際理解」

防犯キャンペーン
保土谷宿場祭り実行委員会
広島県三原市復興募金

みんなの食堂

ユースカレッジ企画委員

サマーミーティング
#君に届け～中学は最後の準備期間

高校生の集い

米国人留学生
台湾留学生おもてなし

レスキューボックス

MUNK模擬国連
ベトナムフェスタボランティア
校内模擬国連運営



～レスキューボックスについて～

withコロナ時代にも

「必要なものを必要としているひとへ」

今年度の活動の中で特に力を入れたのは、レスキューボックスです。レスキューボックスとは、防災関連の設備が乏しい国や地域に防災グッズを送るという活動です。本校では、在校生用の防災グッズを校内に備蓄しています。卒業時に個人へ返却されますが、それらを卒業生から譲り受け、中身の取扱説明書を英訳し、フィリピンやインドネシアに送っています。

過去、このレスキューボックスは、フィリピンで発生した火災で被災された方の支援物資として配られました。今年度は、withコロナ時代にも対応した新しいレスキューボックスを考え世界に向けて発送します。

withコロナ時代にも対応したレスキューボックスというのは、これまで私たちは水、懐中電灯、マスクなどしか入れていませんでした。しかしこのコロナウイルスが蔓延した中でこれだけの防災グッズでは、感染対策をするのには不十分だと考えました。今回送るインドネシアの気候や習慣、災害状況を調べこれまでのレスキューボックスの中に「ろ過装置」と「アルコール消毒」を入れるべきだと考えました。調べている中でインドネシアには水道インフラが整っていないところがまだ多くあると知りました。レスキューボックスに入れた水がなくなったときや手洗い用の水を確保するためにペットボトルを使った簡易ろ過装置を作れるような説明書と材料を入れます。

アルコール消毒は、コロナ禍で普段から消毒をしているため災害時にこそ消毒を怠ってはいけないと思い入れるべきだと考えました。



「今後の展望」

私たちの今後の展望は、過去からの継続とさらなる社会への貢献です。レスキューボックスに関して、私たちは今までフィリピンやインドネシアに送ってきました。今までと同じ、十年一日のような内容・中身ではなく、コロナが蔓延した時こそ、私たちが送るレスキューボックスの内容の変化が活きてくるのです。ただ送るのではなく、その地域の人々の立場に立って、当該地域の気候、文化、実情などの視点から、送るものを決めていきます。そのため、これからも私たちは防災グッズを送る度に、送られる地域が本当に必要としているものを届けられるように、私たち自身が精進していき、多くの方々に少しでも役に立ちたいと切に願っています。

活動団体プロフィール

私たち横浜清風インターアクトクラブは、会員28名、週5回活動しています。国際ロータリークラブ第2590地区保土ヶ谷ロータリークラブの提唱により平成13年に設立されました。“Think Globally, Act Locally”をスローガンに地域ボランティアや募金活動、さらには異文化交流を積極的に行っています。